

# 本願寺 御歴代門主シリーズ

## その十二

本願寺第十三代宗主

良如(りょうによ)上人(一六二五—一六六二年)

良如上人は慶長十七年(一六二二)、本願寺第十二代准如(じゅんにょ)上人のご次男として誕生されました。長兄が早世であったため、寛永(かんえい)七年(一六三〇)に准如上人ご往生の後を承けて、十九歳で本願寺の法灯を繼承されました。

当時の本願寺は、元和三年(一六一七)の失火により、兩御堂をはじめ対面所や門など、ほとんどの建築物を焼失しており、一堂(後に西山別院本堂として移築)のみが再建されました。

良如上人は、繼職とともに本格的な御影堂の建立に

とりかられ、寛永十三年(一六三六)に南北三十間余・東西二十三間余の巨大な木造平屋建築の御影堂(今日の本願寺の御影堂)が完成し、参詣見物者が数千万と伝えられるほど世間を驚かせるものになりました。

またこの頃に、現在の対面所(国宝)や飛雲閣(国宝)も造営され、また、大谷本廟の整備については、慶長八年(一六〇三)に江戸幕府の命令により、知恩院近くにあつた廟堂は五条坂に移転(現在の大谷本廟の地)となりましたが、移転後の本格的な整備は行き届いておらず、寛文元年(一六六一)に宗祖四百回大遠忌法要をお迎えするに先立ちて本格的な整備がなされ、これより歴代宗主の納骨は大谷本廟に行われるようになりました。



本願寺第十三代宗主 良如(りょうによ)上人

このように、良如上人は、在職中に大規模な境内整備事業をなされました。

また、明暦三年(一六五七)に「振り袖火事」と呼ばれる江戸の大火により、浜町別院(江戸浅草御坊ともよばれ、現在の築地本願寺の前身)が焼失してしまいました。

そして、その替え地として与えられた八丁堀の海上を佃島門徒の力により埋立てて、今日の築地本願寺の寺地が築かれました。

このほか、寛永十五年(一六三八)に今日の龍谷大学の前身となる学寮を造設され、幕府の文治政策に呼応して教学の研鑽を深めました。

さらに、良如上人は、「承應闇牆(じょうおうげきじょう)」とよばれた聖道門偏重批判の宗義論争にも、対応されました。

良如上人は、これら江戸時代の新しい政治・社会体制のなか教団の整備・振興に尽力されましたが、寛文二年(一六六二)九月七日(旧暦)、五十一歳でご往生されました。

※参考文献 福間光超著 / 「親鸞聖人と本願寺の歩み」(永田文昌堂)

# 今後の法要スケジュール

「宗祖聖人月忌・

門信徒祥月命日法要」

(善教寺本堂)

二月十六日(日)午後一時半

\*毎月十六日に本堂において勤めております。

「仏教婦人会報恩講」

(善教寺本堂)

三月 七日(金)追悼法要: 午後一時半

昼席: 午後二時

八日(土)朝席: 午前十時

総会: 午後一時半

昼席: 午後二時

講師 足利孝之師(兵庫県尼崎市 安養寺)

\*送迎マイクロバスを運行します

\*仏教婦人会主催法要

\*仏婦会員追悼法要・仏婦総会開催

「柏原春季彼岸会」(柏原説教堂)

三月十八日(火)昼席・夕席

十九日(水)朝席・昼席

講師 根来智師(吳市阿賀北 宝徳寺)